

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導 05 学校体制づくりのサポート 06 ケース会議・研究協力特別支援教育に係る情報発信・
概要	要支援生徒の進路指導の相談
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 東部特別支援学校（伊豆高原分校）

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該高等学校のコーディネーターより、在籍する支援を必要とする生徒に対する、進路指導の進め方、在籍中に学校が行っておくとよいことなどのアドバイスを求められました。 ・他の全日制普通科高校よりも就労を希望する生徒の割合が多いが、支援を要する生徒について一般的な進路指導に当てはまらない部分も多い。そこで、特別支援学校での進路指導を参考にしました。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<ul style="list-style-type: none"> ・成育歴やこれまでの支援について確認したうえで、ケース会議を設定し、具体的にどのような支援を必要としているかを確認しました。 ・本人が必要とする支援内容が確認できたところで、それに対する支援機関や移行支援、卒業後の相談機関についてレクチャーを行いました。

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・本人にあった進路先を指導するうえで、特別支援学校の進路指導は大変役に立った。特に卒業後に困った時にどうするかが学校としても課題であったため、本人、家族（学校も含め）、相談できるところがあるのは心強いです。 ・ほかにも支援を必要としている生徒がいるので、今後も連携をお願いしたいです。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校でも通級がはじまり、同じように学校として進路についての悩みを抱えているケースは今後増えていくと思われます。今回のケースでは、担任が特別支援教育の経験があり、支援や制度についての説明を理解し、対応できることを感じたが、ケースや担任の経験からさらに丁寧に時間をかけて連携する事例も増えていくように思われました。それに対応できるようにするため、学校同士の連携を普段からしていきたいと考えます。

まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする生徒にとって、その必要性や支援の仕方について自分で就労先に伝えることができる生徒はいいが、そうでないことが多いと感じ、生徒と仕事のマッチングの難しさを感じる。また、卒業後相談できる情報が少ないことも生徒、家族にとって不安になると思われる。今回を機会に学校、生徒、保護者の不安が緩和できるようにしたいです。 ・また、相談内容によっては、担任やコーディネーターだけでなく、管理職、養護教諭などとも対応することがあるので、今後も積極的に連携をしていきたいです。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。